九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

スペイン語の丁寧表現 ： 「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」をめぐって

山村, ひろみ
九州大学大学院言語文化研究院 ： 教授

https://doi.org/10.15017/1959056

出版情報：言語文化論究. 41, pp.1-15, 2018-10-22. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

スペイン語の丁寧表現
――「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」をめぐって*――

山　村　ひろみ

0．はじめに

本稿は2016年度後期の１年次の授業で学生から受けた質問が発端となっている。当該授業では、スペインの靴店でブーツを買いたい旨店員に対して伝える際、(1) のように *querer*「欲する」の線過去を用いた丁寧表現が使われることを説明していた。

(1)　Buenos días, quería unas botas.[1]　こんにちは、ブーツが欲しいんですけど。

この説明に対し、授業終了後、ある学生から「先生、丁寧表現として線過去を使うということですが、先日文法の授業で過去未来も丁寧な表現になると教わりました。線過去の丁寧表現と過去未来の丁寧表現ってどう違うんですか。」という質問が出されたのである。確かに、日本の大学で使用されているスペイン語の教科書には（1）のような線過去の丁寧表現と同時に、(2) のような過去未来を用いた丁寧表現が記載されていることが多い。

(2)　Querría hablar un rato con usted.[2]　ちょっとお話ししたいんですが。

(2) の *querría* は *querer* の過去未来であるが、この後に動詞の不定詞が置かれると「～したいのだが」という願望の丁寧表現となる。このように一般の教科書には「丁寧の線過去（imperfecto de cortesía)」と「丁寧の過去未来（condicional de cortesía)」が合わせて記載されているにも拘わらず、両者の間には違いがあるのか、違いがあるとしたらそれはどのようなものなのか、ということを簡潔に説明した教科書は管見の限りない[3]。そこで本稿では、次の３点を明らかにすることを目指す。まず、「丁寧の線過去と丁寧の過去未来は同じものか」、言い換えるならば、両者は常に交替可能か。そして、「丁寧の線過去と丁寧の過去未来が異なるものとしたら、その違いはどのような点にあるのか」、さらに、「丁寧の線過去が生起するメカニズムと丁寧の過去未来が生起するメカニズムとはどのようなものか」である。

以下、本稿の構成は次のとおりである。まず、第１節では「丁寧の線過去」、「丁寧の過去未来」に関する先行研究を概観する。第２節では、線過去の丁寧用法が生じるメカニズム、続く第３節では同じく過去未来の丁寧用法が生じるメカニズムを検討する。そして第４節では第２節と第３節で検討した内容を踏まえ、「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の交替可能性について論じる。最後の第５節では本稿で明らかになったことをまとめる。

1．先行研究概観

本節では「丁寧の線過去」および「丁寧の過去未来」を扱った主たる先行研究を概観する。

1．1．Fernández Ramírez（1986）

まず、Fernández Ramírez（1986）を見てみよう。そこでは「丁寧の線過去」の説明として（3）のような記述が見られる。

（3）《**El imperfecto de cortesía**》**equivale a un presente**. Sin embargo,《**se basa en el imperfecto que designa hechos o intensiones pretéritas, aunque recientes, ya frustradas**. La idea de la frustración, de la solución contraria al deseo, es la que reviste a estos imperfectos de cierto tono de cortesías》, como cuando decimos《Yo quería, (pero ya sé que no es posible》.（Fernández Ramírez 1986: 270, 太字は筆者）
「《丁寧の線過去は》現在に等しい。しかしながら、《事実あるいは、ついさっきのことではあるが、達成されなかった過去の意図を示す線過去に基づいている》。挫折、その希望とは逆の結末という考えが、これらの線過去に何らかの丁寧さという調子を帯びさせる、それは《私はそうしたかった、（しかしそれが可能でないことをすでに知っている）》というときのようなものである。」

（3）の「「丁寧の線過去」は現在に等しい」というのは、「丁寧の線過去」は発話時の事態に言及するということを示したものであろう。しかし、それではなぜ線過去が使われるのか。それに対して Fernández Ramírez は、《Yo quería, (pero ya sé que no es posible》に見られるように、線過去はついさっきの達成されなかった過去の意図を示すが、この話し手の意図の失敗という見方こそが線過去に丁寧さのニュアンスを生むとしているのである。このような解釈に基づきながら Fernández Ramírez（1986: 270）があげた「丁寧の線過去」の例には次のようなものがある。

（4）-¿Y usted qué deseaba, joven?
でお若い方、何をお望みですか。
（5）Tenía pensamientos de ir al baile esta tarde, señor Mauricio.
Mauricio さん、私今日の午後ダンスパーティに行こうと思っていたんですけど。
（6）¿Buscaba usted a mi padre?
私の父をお探しでしたか。
（7）¿Me llamaba usted, mi cordial y querido tío?
私をお呼びでしたか、私の優しくて愛するおじさま。

1．2．Porto Dapena（1989）

次に Porto Dapena（1989）を見る。この Porto Dapena（1989）では「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の両方が扱われている。まず、(8) を見ると「丁寧の線過去」は「謙遜の線過去（imperfecto de humilidad）」と合わせて説明されており、この「丁寧あるいは謙遜の線過去」はその遂行が聞き手に依存していることを表すのに役立つ、と解釈されていることが分かる。Porto Dapena（1989）があげた「丁寧あるいは謙遜の線過去」の例は (9) から (12) である。

(8) El imperfecto de cortesía o humilidad. **Sirve para expresar algo** –(...)-**cuyo cumplimiento hacemos depender de nuestro interlocutor**:
(Porto Dapena 1989:99, 太字は筆者)
「丁寧あるいは謙遜の線過去は（中略）何かその遂行が聞き手に依存していることを表すのに役立つ。」

(9) Venía a que me hicieras un favor. あなたにお願いがあって来たんだけど。

(10) A mi juicio, este chico merecía aprobar. 私の判断によれば、この子は当然合格だと思うんですけど。

また、Porto Dapena（1989）は「丁寧あるいは謙遜の線過去」は動詞が *querer*、*poder*「～することができる」、*valer*「価値がある」、*deber*「～すべきである」、*convenir*「都合がよい」、*necesitar*「必要がある」、*desear*「望む」などのときのみ過去未来と置き換え可能だと指摘しているが、これは「丁寧の線過去」のすべてが必ずしも「丁寧の過去未来」に交替可能ではないことを明示したもので看過できない。(11)（12）はそこであげられた例である。

(11) Debías tener más paciencia.　君はもっと我慢すべきなんだが。

(12) Quería que me echase usted una mano.　ちょっと手を貸していただきたいんですが。

次に Porto Dapena（1989）の「丁寧の過去未来」についての説明を見るが、その前に「謙遜の過去未来」の説明も見ておく必要がある。Porto Dapena（1989）は「丁寧の過去未来」を「謙遜の過去未来」に準じるものと見ているからである。その「謙遜の過去未来」について、Porto Dapena（1989: 59）は、特に、伝達動詞の１人称と共に使われ、「聞き手と矛盾する、あるいは、矛盾するかもしれないと思われる意見や態度を表す」としている。一方、「丁寧の過去未来」については、「謙遜の過去未来」と同じく聞き手の好意や理解を得るためのものだが、「謙遜の過去未来」とは異なり、聞き手に何かをしてもらうために用いられるとし、(13) (14) の例をあげている。

(13) ¿Sería usted tan amable de abrirme la puerta?　ドアを開けていただけますでしょうか。

(14) Deberías trabajar más.　君はもっと働くべきだけど。

また、先に見た「丁寧の線過去」に対する記述に対応するように、Porto Dapena（1989:59）は、動詞が *convenir, desear, necesitar, poder, valer* のとき、「丁寧の過去未来」は「丁寧の線過去」と置き換え可能なこと、さらに、動詞が *deber, querer* のときには線過去に加え接続法過去とも置き換え可能であることも指摘している。

１．３．NGLE（2009）

本項では *Nueva gramática de la lengua española*（以下、NGLE）の記述を見る。最初に「丁寧の線過去」を見るが、NGLE は「丁寧の線過去」を線過去の modal 用法のひとつと見なしていることから、まずは、NGLE による線過去の modal 用法の説明を確認しておきたい。

NGLE によれば、線過去は当該事態が位置づけられるための発話時以前の枠組みを必要とし、この発話時以前の枠組みは過去の状況のこともあれば非現実的なものとして提示されることもあるが、想定されるべき過去の状況は、たとえ言語化されていないにしても、話し手によって喚起されていなければならない、とされている[4]。

また、NGLE は、線過去によって喚起される過去の枠組みの概念は拡張され、過去の状況のみならず、仮想上、つまり、非現実の状況、さらには、他の多くの文脈にまで広がったとし、「丁寧の線過去」は「「夢の線過去（imperfecto onírico）」「遊戯の線過去（imperfecto lúdico）」と並んでその「他の多くの文脈」に出現した線過去の用法のひとつとして解釈されている[5]。そのうち「丁寧の線過去」の説明にあたっては、次に見るように、alejamiento, distanciamiento「遠ざけ」といった概念の影響が強調されている。

（15） 23.11e **EL ALEJAMIENTO O DISTANCIAMIENTO -sea real o ficticio- del que se habla caracteriza también al llamado IMPERFCTO DE CORTESÍA, con el que se introducen situaciones que se interpretan en presente**, como en *Yo... venía a pedirle un favor*. (...) Cuando se expresan deseos, es habitual que el imperfecto de cortesía alterne con el condicional simple (*deseaba~desearía*). (...) Estos usos son particularmente frecuentes con *querer* y *desear*, pero se rechazan en ellos los verbos que expresan sentimientos relativos a la manifestación de tales deseos. **Alternan, pues**, ***deseaba* y *desearía*, pero no lo hacen *me gustaba* y *me gustaría*.** (NGLE 2009: 1749-1750, 23.11e, 太字は筆者）
「現実のものであれ仮想上のものであれ、ここで言及されている「遠ざけ（alejamiento あるいは distanciamiento）」はいわゆる「丁寧の線過去」も特徴づけるものであるが、この「丁寧の線過去」は *Yo... venía a pedirle un favor*（お願いがあって伺ったのですが）におけるように現在で解釈される状況を導入する。（中略）希望が表明されるときには、*deseaba~desearía* のように「丁寧の線過去」は過去未来と交替するのが通常である。（中略）これらの用法（線過去と過去未来の交替のこと、筆者注）はとりわけ *querer*「欲する」と *desear*「希望する」においてよく起こるが、そのような希望の表明に関する感情を表す動詞においては拒否される。したがって、*deseaba* と *desearía* は交替するが、*me gustaba* と *me gustaría* は交替しない。」

（15）によれば、NGLE は「遠ざけ（alejamiento あるいは distanciamiento）」というのが「丁寧の線過去」を特徴づけるものとした上で、上で見た先行研究と同様、この「丁寧の線過去」は現在で解釈される状況が線過去で導入されたものだとしている。また、「希望（deseos）」が表明される際には「丁寧の線過去」は過去未来と交替可能であるが、*gustar* のようなそのような希望の表明に関しての感情を表す動詞においてはそのような交替はできないとも指摘している。さらに、NGLE は（16）が示すように、「丁寧の線過去」では現実の状況があたかも現実ではないように提示される、つまり、主張や要求を緩和するために当該状況が意図的に現実から遠ざけられる、とも述べている。この記述から NGLE が用いた「遠ざけ」とはまさに現実からの遠ざけを意味していることが分かるだろう。

（16） 23.11g (...), con el imperfecto de cortesía se presentan las situaciones reales como si no lo fueran, es decir, como ficticias o como pretéritas. Se alejan por tanto de manera deliberada de la realidad con la intención de atenuar lo que en ellas se afirma o se demanda. (NGLE 2009:1750, 23.11g)
「（中略）、「丁寧の線過去」とともに現実の状況はあたかもそうでないように、すなわち、架空のあるいは過去のもののように提示される。したがって、その状況は、そこで主張あるいは要求されていることを緩和するという意図から、わざと現実から遠ざけられることになる。」

さて、次に NGLE の「丁寧の過去未来」の説明を見る。まず、NGLE は「丁寧の線過去」を扱ったのと同じ 23.11g で「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」とは密接な関係があると述べ、(17)(18) が示すような「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の交替の例をあげている。

(17) ¿No {podíamos~ podríamos} ir a otra pensión? 私たちは別のペンションに行けないかしら。
(18) Yo {quería~querría} pedirle un favor.　お願いがあるんですけど。

また、「謙遜あるいは丁寧の過去未来」を扱った 23.15ñ では、それは「丁寧の線過去」と並行関係にあるとし、(19) が示すように、両者および現在は交替可能だと指摘している。

(19) {Desearía~Deseaba~Deseo[6]} hablar con el doctor. (NGLE 2009:1783, 23.15ñ)
(「丁寧の過去未来」「丁寧の線過去」の場合) 部長とお話ししたいのですが。
(現在の場合) 部長とお話ししたいです。

しかし、過去未来と現在との交替は、*Me gustaría decir algo*「私は何か言いたいのだが」のように過去未来が現在の希望を表す表現の場合には起こらないと述べている。つまり、*Me gustaría decir algo* とその現在による表出 *Me gusta decir algo*「私は何かを言うのが好きだ」とは意味が異なるのである。このことを (15) で見た「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の交替と合わせて考えてみると、現在の希望を表す「丁寧の過去未来」と線過去および現在の交替は (20) のようにまとめられる。

(20) Me {gustaría~#gustaba~#gusta} decir algo[7].

1.4. WEB 教材における記述

さて、本項からはネット上でアクセスすることのできたスペイン語教材の中での記述を見ていく。先行研究としてこれらの教材を取り上げるのは、WEB 教材にはこれまで見てきた先行研究とは異なり具体例が多く提示されており、ネットを通じてスペイン語を独学している人を意識してか、各用法についての詳細な解説があるからである。

1.4.1 Español podcast (http://www.spanishpodcast.org/podcasts_con_transcripcion/161BT.html)

まず、取り上げるのは、Español podcast である。このサイトの「丁寧の線過去」に対する説明で特徴的なのは、この用法が可能なのは *querer, desear, venir*「来る」, *llamar*「電話をかける」の 4 つの動詞だけだと明言している点である。これまで見てきたように、また、後述するように、「丁寧の線過去」と呼ばれている用法の動詞は必ずしもこれら 4 つに限定されるわけではないが、このような指摘は「丁寧の線過去」に使用される動詞がかなり限定されたものであることを示唆していると思われる。一方、「丁寧の線過去」において線過去が使用されることについては、過去が対話者間の distancia「隔たり」を表示し、要求、希望、忠告等を緩和することになるからだとしている。次に、このサイトであげられている「丁寧の線過去」の例文を見られたい。

(21) - Hola, ¿qué quería?　こんにちは、何をお求めですか。
- Pues...quería un pantalón corto.　えっと、ショートパンツが欲しいんですが。
- ¿Para llevar por la calle o de playa?　街着用、それとも、ビーチ用ですか。

- No, no, para ir por la calle.　いえ、いえ、街着用です。

(A partir de aquí, **pasados los primeros momentos de la interacción, es posible y usual continuar con presente normal**. 太字は筆者)(ここから、店員とお客の最初のインタラクションが終わったら、通常の現在で続けることができ、それが普通である。)

(21)で注目したいのは、「店員とお客の最初のインタラクションが終わったら、現在で話しを続けるのが普通」という添え書きである。これは、言い換えれば、「丁寧の線過去」はある特定の状況、店員とお客の最初の接触時において使用されるのが一般的であることを示したものである。この聞き手と話し手の最初の接触時にこそ「丁寧の線過去」が出現するというのは、次の例でも確認される。

(22) - Díganme, señores, ¿qué deseaban?　はい、お客様方、何のご用でしょうか。
- Veníamos para entrevistarnos con el director.　私ども部長さんにお会いするために来たのですが。
- ¿Tienen cita previa?　事前のお約束はおありでしょうか。
- No, pero es urgente.　いいえ、でも緊急なんです。

(23) - Agencia de Empleo "Trabajo Seguro". Dígame.　仕事紹介所 Trabajo Seguro です。もしもし。
- Hola, buenos días, llamaba para saber si hay alguna nueva oferta de trabajo.
こんにちは、新しい仕事のオファーがあるかどうかを知るために電話したんですけど。

次に、Español podcast の「丁寧の過去未来」に対する説明を見る。Español podcast は「過去未来」を「条件法」という modo のひとつとしている点で他の先行研究とは異なっているが、それが場合によっては「丁寧の線過去」と交替できるとしている点は他の先行研究と同じ立場を取っている。また、Español podcast は、通常の質問文では次に見るすべての動詞で「丁寧の過去未来」を使用することができるが、「丁寧の線過去」の場合は先に見た4種類の動詞に限られるとしている。

(24) ¿Podrías dejarme 50 euros?　50ユーロ貸してもらえるかな。
(25) ¿Qué desearía beber, vino o cerveza?　お飲み物は何をお望みで、ワインですかビールですか。
(26) ¿Sería tan amable de sujetarme la puerta?　ドアを押さえておいていただけますか。
(27) ¿Tendría la amabilidad de ayudarme con esta maleta?　このスーツケースを持っていただけますか。
(28) ¿Te importaría cerrar la puerta?　そのドアを閉めていただけないでしょうか。
(29) ¿Te molestaría llamarme esta noche?　今晩私にお電話いただけませんか。
(30) ¿Qué te parecería hacer un viaje de un mes por toda España?
1か月間スペイン全土を旅行してまわるというのはどうですか。
(31) ¿Te gustaría pasar las vacaciones en una isla del Caribe?
カリブ海の島でバカンスを過ごしたいでしょうか。
(32) ¿Me haría el favor de decirme la hora?　今何時かを教えていただけますか。
(33) ¿Te iría bien quedar hoy hacia las 8?　今日の8時くらいに会うというのはどうだろうか。

さらに、Español podcast の中で注目すべきは、製パン店でバゲットを買う際に「丁寧の過去未来」と「丁寧の線過去」のどちらを使うべきか、ということを説明した部分である。Español podcast に

よれば、そのような場合に（34）のように過去未来を使うと、押しつけがましく、気取っているように聞こえるが、（35）のように線過去であれば完璧に聞こえるという。残念ながら、Español podcast にはなぜそのような違いが生じるのかという説明はないが、この指摘は「丁寧の過去未来」と「丁寧の線過去」の違いを考える上で看過できないものである。

Pero si volvemos al **ejemplo de "comprar una barra de pan"** en la panadería（ejemplo que usábamos frecuentemente para ilustrar el uso del imperfecto de cortesía）**. En ese ejemplo, usar el condicional es un poco forzado, queda un poco rebuscado y atípico.**
（34） - Buenos días, querría una barra de pan.
Se va a oír como algo un tanto inhabitual, y quizás innecesario. Lo que suena perfectamente es:
（35） - Buenas, quería una baguette. （太字は筆者）
「しかし、（「丁寧の線過去」の用法を示すためにしばしば用いていた）製パン店で「バゲットを買う」という例に戻るならば、そこで「丁寧の過去未来」を用いるのは少し不自然、少々気取って非典型的なものになる。
（34） おはようございます、バゲットをいただきたいんですけど。
（34）は何かしら普通ではなく、たぶん不必要なものに聞こえるだろう。完璧に聞こえるのは、次の（「丁寧の線過去」を用いた、筆者注）
（35） こんちは、バゲットほしいんだけど。
である。」

１．４．２　http://blog.lengua-e.com/2015/imperfecto-de-cortesia/

このサイトでも上の Español podcast と同じく、「丁寧の線過去」が用いられるのは、お客が店に入り店員に声をかける際である、と指摘されている。ただし、本サイトでは「丁寧の線過去」に用いられる動詞は制限されていない。実際、提示された（36）（37）の動詞は Español podcast には出現しなかったものである。

（36） ¿Tienes un momento para hablar? Tenía que pedirte una cosa.
ちょっと話す時間ある？　頼まなきゃならないことがあったんだけど。
（37） Perdone, estaba buscando un libro sobre los usos de los tiempos verbales.
すみません、動詞時制の用法についての本を探していたんですけど。

１．４．３　http://www.gramaticas.net/2016/09/solucion-ejercicio-usos-trasladados.html

一方、（38）が示すように、「丁寧の線過去」を動詞の uso trasladado「転移用法」と解釈しているサイトもある。

（38） **El Pretérito Imperfecto de Cortesía（o simplemente Imperfecto de Cortesía）es un uso trasladado del verbo** en el que mediante el pretérito imperfecto se expresa una acción presente con significado de cortesía. （太字は筆者）
「「丁寧の線過去」は、線過去を通して、現在の行為が丁寧の意味とともに表される動詞の転移用法である」

また、本サイトがあげた例でも、1.4.2のサイトと同じく、Español podcast があげなかった動詞 buscar「探す」が使われている。

(39) Disculpe, estaba buscando la dirección de... すみません、... のアドレスを探していたんですが。
(40) Dígame qué buscaba. 何をお探しでしょうか。

1.5. まとめ

本節では、以上見てきた先行研究、WEB 教材の記述から、先に提示したいくつかの疑問に対する回答をまとめていきたい。

1.5.1 「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」は同じものか。

まず、「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」は同じものか、という問いに対しては、否である。なぜならば、「丁寧の線過去」として認められる動詞表現は「丁寧の過去未来」として認められる動詞表現より少なく、「丁寧の線過去」が許容される状況も限られているからである。また、この回答から、「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」は常に交替可能かという問いに対する回答も決まってくる。すなわち、両者は必ずしも交替可能なわけではない、ということである。

実際、Porto Dapena (1989) は、「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の交替が可能なのは、動詞が *querer, poder, valer, deber, convenir, necesitar, desear* のときであるとしていたし、Español podcast のように、交替の可能性を *querer, desear, venir, llamar* という 4 つの動詞に制限しているものもあった。また、NGLE (2009) は、当該交替が可能なのは動詞が deseo「希望」を表す場合だと指摘していた。しかしながら、Español podcast によれば、NGLE が言うように動詞が deseo を表すときでも、製パン店でバゲットを買う場合のように、状況によっては「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の交替は困難でもっぱら「丁寧の線過去」が用いられることになる場合もある。

1.5.2 「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」はどのように異なるのか。

それでは必ずしも交替が可能なわけではない「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の違いはどの辺にあるのだろうか。これまで提示されてきた例文からは、以下のことが分かる。

まず、主体（主語）の違いである。「丁寧の線過去」は発話時において話し手が主体となった主張、希望、依頼などを表す平叙文で用いられる傾向があるのに対し、「丁寧の過去未来」は発話時において聞き手が主体となる要求、依頼などを表す疑問文で出現する傾向がある。

また、両者の間にはどのような場で発話されるかという発話状況の違いもある。「丁寧の線過去」には、例えば、お客が店に入った直後、店員に対して、あるいは、客が店に入った直後、店員がそのお客に対してというように、当該発話を喚起するような典型的な状況が存在する。一方、「丁寧の過去未来」には、当該発話を喚起するような典型的な状況、いわば状況的制約は少ないように見える。

2.「丁寧の線過去」のメカニズム

本節では前節で確認したことを踏まえ、「丁寧の線過去」が生起するメカニズムについて考えてみたい。まず、上で見た先行研究の「丁寧の線過去」の解釈を振り返ってみよう。

最初に見た Fernández Ramírez (1986) は、「丁寧の線過去」は「「達成されなかった過去の意図」を示す線過去に基づく」としていた。これは「丁寧の線過去」を線過去に付与された「未完了アス

ペクト」から説明しようとしたものと思われるが、問題がある。というのも、「丁寧の線過去」は必ずしも「達成されなかった過去の意図」を表しているわけではないからである。例えば、(23) の *llamaba*、(37) の *estaba buscando* は発話時において展開中の事態を表しており、話し手の意図が達成されなかったものとは言えない[8]。

(23) - Agencia de Empleo "Trabajo Seguro". Dígame.　仕事紹介所 Trabajo Seguro です。もしもし。
- Hola, buenos días, llamaba para saber si hay alguna nueva oferta de trabajo.
こんにちは、新しい仕事のオファーがあるかどうかを知るために電話したんですけど。

(37) Perdone, estaba buscando un libro sobre los usos de los tiempos verbales.
すみません、動詞時制の用法についての本を探していたんですけど。

同様に、Porto Dapena (1989) の「丁寧の線過去」に対する解釈にも問題がある。Porto Dapena によれば、「丁寧の線過去」はその遂行の可能性が聞き手に依存するような事態を表すということであったが、上の (23) (37) のように、「丁寧の線過去」には線過去の表す事態が発話時においてすでに遂行されていることを表すものが少なくないからである。

さらに、「丁寧の線過去」は線過去の「遠ざけ (alejamiento, distanciamiento)」という特徴に基づくとする NGLE の解釈にも問題があるように見える。なぜならば、もし「丁寧の線過去」が単にその「遠ざけ」という特徴に基づくものであれば「丁寧の過去未来」と同じくらい多くの事態、また、様々な状況で適用可能になると予測されるのに対し、実際には、その使用状況に制限があるからである。

このように先行研究の「丁寧の線過去」に対する解釈には妥当性を欠く場合がある。そこで本稿はそれらに代わる解釈として、山村 (1996, 1997, 1999) で提示された線過去の機能に基づく「丁寧の線過去」のメカニズムを考えてみることにした。山村 (1996, 1997, 1999) が提示した線過去の機能は (41) のように示される。

(41) Imperfecto: PoV　P = 既定の過去時
oV = 既定の基準時に対する同時的関係、当該事態の現在によって表出される。

(41) の PoV という記号は、線過去が「既定の過去時と同時的関係にある事態を表す」ことを示したものである。また、(41) によれば、当該事態のある基準時に対する同時的関係は常にその基準時に対して「現在」で表される、ということにもなる。

さて、この山村 (1996, 1997, 1999) の線過去の規定に従い、先に見た「丁寧の線過去」の (21) (23) (37) を解釈すると次のようになる。

(21) a. - Hola, ¿qué quería?
b. - Pues...quería un pantalón corto
a. qué quería: PoV
= P (既定の [想定される]) 過去時) [qué quiere {usted} (何をお求めですか)]
= P (店員がお客に気づいた時点)　[qué quiere {usted}]
b. quería un pantalón corto: PoV
= P (既定の [想定される]) 過去時) [quiero un pantalón corto

（ショートパンツが欲しいです）］
＝P（店に入った時点、店員から声をかけられた時点等）
［quiero un pantalón corto（ショートパンツが欲しいです）］

（23） - Agencia de Empleo “Trabajo Seguro”. Dígame.
- Hola, buenos días, llamaba para saber si hay alguna nueva oferta de trabajo.
llamaba para saber...: PoV
＝P（既定の［想定される］）過去時）［{yo} llamo para saber ...（... を知るために電話しています）］
＝P（オペレータが応対してくれた時）［{yo} llamo para saber ...（... を知るために電話しています）］

（37） Perdone, estaba buscando un libro sobre los usos de los tiempos verbales.
Estaba buscando un libro: PoV
＝P（既定の［想定される］）過去時）［{yo} estoy buscando un libro（私は本を探しています）］
＝P（店に入った時点、店員と接触した時点等））
［{yo} estoy buscando un libro（私は本を探しています）］

以上の解釈で重要なのは、（21）では店員とお客、（23）ではオペレータと電話主、（37）ではお客と店員が互いに何らかの接触をしたことが線過去の出現に必須の「既定の過去時 P」を喚起するという点である。ここで言う「喚起」とは、例えば、（21a）において、店員は実際にはお客に気づいていなかったかもしれないが、当該状況で線過去を用いると、お客の側に自分が店に入ったときにあたかも店員がお客に注視していたような解釈を引き起こす、ということを指す。同様のことは（21b）が示すお客の側にもあてはまるであろう。

しかし、「丁寧の線過去」がそのようなメカニズムから生じるとしても、その「丁寧」というニュアンスはどこから生まれてくるのだろうか。この点について、本稿は次のように考える。

前述のように、話し手と聞き手との接触自体が線過去の出現に必須の「既定の過去時 P」を喚起するとするならば、逆に、線過去による表出は話し手側の聞き手との接触に対する注目を示唆するということになり、そのことが、結果的に、話し手の聞き手に対する「配慮」の表示につながっていくということである。このことは、次に見るように、同じ発話が現在で表出された場合と比較してみるとはっきりする。

（21）’ a. - Hola, ¿qué quiere?　こんにちは、何をお求めですか。
b. - Pues...quiero un pantalón corto.　えっと、ショートパンツが欲しいです。
a. qué quiere: OoV
＝O（発話時）［qué quiere {usted}（何をお求めですか）］
b. quiero un pantalón corto: OoV
＝O（発話時）［quiero un pantalón corto（ショートパンツが欲しいです）］

(21)' が示すように、「丁寧の線過去」が使用される状況で現在が用いられると、線過去の出現に必須の P の喚起はなくなり、話し手の聞き手との接触時に対する注目も喚起されなくなる。その結果、(21)' は単に話し手の発話時における表明を示すだけで、聞き手とのインタラクション、すなわち、聞き手への「配慮」を欠いた発話となってしまうのである。

3.「丁寧の過去未来」のメカニズム

次に「丁寧の過去未来」対する先行研究の解釈を見ていく。すでに見たように、Porto Dapena (1989) は、「謙遜の過去未来」は相手のそれと矛盾するような意見、立場を表明する際に用いられるとし、「丁寧の過去未来」についても、相手の好意・理解を引き出そうとする限り、「謙遜の過去未来」と同じであるとしていた。一方、NGLE (2009) は「丁寧の過去未来」を (42) のように解釈している。

(42) 23.15ñ (...) Cabe entender estos usos del condicional de cortesía como un caso particular de los recogidos más arriba, de forma que **se sobrentiende alguna situación hipotética creada retóricamente: 'si pudiera', 'si fuera posible', etc.** (NGLE 2009: 1783, 太字は筆者)
「これらの「丁寧の過去未来」の用法は上で扱われた事例の特例として理解することができ、'si pudiera', 'si fuera posible' (もしできるならば) といった修辞的に創造された何らかの仮定的な状況が暗黙のうちに了解されているのである」

NGLE (2009) と同じく、「丁寧の過去未来」の背後には仮定的状況があるという解釈は、(43) の「丁寧の過去未来」を扱った Vatrican (2013) の記述にも見られる。

(43) (...) **la atenuación y la cortesía son efectos manifiestos a nivel de la enunciación: la construcción hipotética de tipo irreal produce a nivel pragmático un efecto cortés o atenuador.** (...) Parece que la hipótesis es uno de los medios gramaticales del que dispone el español para producir cortesía y atenuación. (太字は筆者)
「緩和と丁寧さは発話のレベルで表明された効果である。すなわち、非現実タイプの仮定的構造は語用論レベルにおいて丁寧あるいは緩和的な効果をもたらすのである。(中略) 仮定は丁寧さと緩和をもたらすためにスペイン語が利用する文法的方策のひとつである」

本稿は、この NGLE (2009)、Vatrican (2013) が言う「「丁寧の過去未来」の背後には仮定構造がある」という解釈は極めて有効であると考える。というのも、そのように考えると、先に見た「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の交替可能性の有無がうまく説明されることになるからである。例えば、(15) では、NGLE (2009) が線過去の *deseaba* と過去未来の *desearía* は交替できるが、同じ線過去の *me gustaba* と 過去未来の *me gustaría* は交替できないと指摘していたのを見たが、この *desear* と *gustar* の違いは、(44) (45) における違いに対応したものと考えることができる。

(44) Si fuera posible, deseaba/desearía invitarles a cenar.
もしできるならば、あなた方を夕食に招待したいのですが。
(45) Si fuera posible, me #gustaba/gustaría invitarles a cenar.

もしできるならば、あなた方を # 夕食に招待するのが好きですが / 夕食に招待したいのですが。

つまり、*deseaba* と *desearía* が交替可能なのは、線過去の *deseaba* が過去未来の *desearía* と同じく *"si fuera posible"*「もしできるならば」という仮定文の帰結節に出現し話し手の希望を表出することができるからであり、一方、*gustaba* が *gustaría* に交替されないのは、*gustaba* は *"si fuera posible"* という仮定文の帰結節に出現すると不自然になることに因る、と解釈することができるのである。

しかし、それでは「丁寧の過去未来」が持つ「丁寧」というニュアンスはどこから生まれてくるのだろうか。それについても、「丁寧の過去未来」の背後には非明示的な仮定構文が存在する、という解釈が有効である。すなわち、話し手が当該事態を *"si fuera posible"*「もし可能ならば」という仮定の下で提示すること自体が聞き手に対する話し手の「謙遜」を示すことになり、そのことが聞き手に対する「配慮」「丁寧さ」につながるからである。このように考えれば、先に見た（36）がなぜ不自然に聞こえるのかも理解できるようになる。

（34） - Buenos días, querría una barra de pan.
（製パン店で）おはようございます、バゲットをいただきたいんですけど。
（34）' - Buenos días, [si fuera posible,] #querría una barra de pan.
（製パン店で）おはようございます、[もし可能であれば]、バゲットをいただきたいんですけど。

すなわち、（34）における「丁寧の過去未来」の不適切さは、（34）' が示すように、バゲットのようなパンの売買が前提となっている製パン店においてその売買を「仮定」するという発話行為自体の不自然さ、すなわち、その語用論的不自然さから生じたものと考えられるのである。

4.「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の交替可能性

以上のことを踏まえ、本節では改めて、「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の交替可能性についてまとめておきたい。

まず、「丁寧の過去未来」に交替できない「丁寧の線過去」については、（22）' が示すように、当該の状況において、*"si fuera posible"* という仮定文を想定すること自体が不自然になるものということができるだろう。

（22） - Díganme, señores, ¿qué deseaban? はい、お客様方、何のご用でしょうか。
- Veníamos para entrevistarnos con el director. 私どもは部長さんにお会いするために来たのですが。
（22）' - Díganme, señores, ¿qué deseaban?
-#（Si fuera posible,）vendríamos para entrevistarnos con el director
（もし可能ならば）私どもは部長さんにお会いするために来るのですが。

一方、「丁寧の線過去」に交替できない「丁寧の過去未来」は、（31）が示すように、対応する線過去が *"si fuera posible"* という仮定文の帰結節に出現すると不自然になるものということになる。

（31） ¿Te gustaría pasar las vacaciones en una isla del Caribe?

→ Si fuera posible, ¿te gustaría pasar las vacaciones en una isla del Caribe?
Si fuera posible, #¿te gustaba pasar las vacaciones en una isla del Caribe?
もし可能ならば、あなたはカリブ海の島でバカンスを過ごすのが好きですか。

さらに、交替可能な「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」については、次の例のように *"si fuera posible"* という仮定文の帰結節において線過去と過去未来の両方が出現可能なものということになる。

(46) Si fuera posible, yo {quería~ querría} pedirle un favor.
もし可能ならば、あなたにお願いをしたいのですが。

ところで、*"si fuera posible"* という仮定文の帰結節において線過去と過去未来の交替ができる表現とできない表現との間にはどのような違いがあるのだろうか。それを［yo querer+inf.］「私が〜したいこと」と［gustarme+inf］「私が〜するのが好きなこと」という２つの事態を例にして考えてみたい。まず、(47abc)(48abc) を見られたい。

(47) a. Hola, quiero hablar con el director. こんにちは、部長さんと話したいです。
b. Buenos días, quería hablar con el director. こんにちは、部長さんとお話したかったんですが。
c. Buenos días, querría hablar con el director. こんにちは、部長さんとお話したいんですが。
(48) a. Hola, #me gusta hablar con el director. こんにちは、私は部長さんと話すのが好きです。
b. Buenos días, #me gustaba hablar con el director. こんにちは、私は部長さんと話すのが好きでした。
c. Buenos días, me gustaría hablar con el director. こんにちは、私は部長さんとお話ししたいんですが。

これらの例から、［yo querer+inf.］は現在、線過去、過去未来のいずれで表出されても、不定詞で表された事態［hablar con el director］(「部長と話すこと」) がその発話時以降に生起することを表すことが分かる。その結果、［yo querer+inf.］においては、現在、線過去、過去未来が互いに交替可能になるのだと考える。一方、［gustarme+inf.］の場合は、(50c) の過去未来だけが不定詞の表す事態［hablar con el director］が発話時以降に生起することを表し、(50a) の現在、(50b) の線過去は不定詞の表す事態が発話時以降に生起することを表さない。このような違いから、*gustar* 文においては過去未来と現在、線過去の間には交替可能性がないのだと思われる。

5．まとめ

以上見てきたことを、最初に提示した質問に答える形でまとめると次のようになる。

● 「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」は同じものか。両者は常に交替可能か。
「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」は同じものではなく、両者は必ずしも交替可能ではない。
● 「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」が異なるものとしたら、その違いはどのようなものか。
「丁寧の線過去」は話し手が主体となり、話し手と聞き手との最初の接触時というような当該発話を喚起するような典型的な状況が存在する。一方、「丁寧の過去未来」は聞き手が主体になることが

多く、「丁寧の線過去」に見られるような状況的制約は比較的少ない。

● 「丁寧の線過去」が生起するメカニズムと「丁寧の過去未来」が生起するメカニズムとはどのようなものか。

「丁寧の線過去」が使用される状況では、話し手と聞き手との接触自体が線過去の出現に必須のP（既定の過去時）を喚起し、当該事態はそのPに対して同時的関係にあるものとして提示される。つまり、線過去の使用は、話し手による聞き手との接触に対する注目を示唆することになり、それが「丁寧」さといったニュアンスを生むことになる。一方、「丁寧の過去未来」の背後には常に非明示的な仮定構造が想定され、当該事態をそのような仮定構造の下に基づき提示するということ自体が話し手の聞き手に対する「配慮」を表すことになる。

注

* 本稿は2017年9月1日鳥取県鳥取市鹿野町国民宿舎山紫苑で開催された2017年日本スペイン語学セミナー（SELE2017）の統一テーマ「文法Q＆A」において「スペイン語の丁寧表現－「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」」という題目で発表した内容を修正・加筆したものである。

1 線過去は下線で示す。

2 過去未来は点線で示す。

3 しかしながら、「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」の違いを説明した参考書としては山田善郎ほか（1995）がある。

4 Cfr. NGLE (2009:1748), 23.11a.

5 Cfr. NGLE (2009:1748-1749), 23.11b-23.11e.

6 現在は太線で示す。

7 #は、当該の動詞形式を用いても非文とはならないが、過去未来が表す「丁寧」さとは異なる意味になることを示している。

8 Fernández Ramírez (1986:270) があげた例のうち、(4)(6)(7)の線過去も話し手の達成されなかった意図を表すとは言いがたい。

参 考 文 献

Fernández Ramírez, S. (1986): *Gramática española 4. El verbo y la oración*, volumen ordenado y completado por Bosque, I., Madrid:Arco/Libros, S.A.

Porto Dapena, J.A. (1989): *Tiempos y formas no personales del verbo*, Madrid:Arco/Libros, S.A.

Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2009): *Nueva gramática de la lengua española. Morfología y sintaxis*, Madrid: Espasa

Vatrican, A. (2013): El condicional de cortesía en español: La hipótesis como forma de atenuación, http: // ww w.uv.es/canea/ archivos/Estudios_linguistica_2013.pdf

山田善郎ほか（1995):『中級スペイン文法』白水社

山村ひろみ（1996):「canté/cantaba のアスペクト対立に基づく解釈をめぐって」*Hispánica* 40, 48-62.

――――（1997):「canté 形、cantaba 形と時間的限定性」*Hispánica* 41, 53-66.

――――（1998):「imperfect de cortesía y modestia について」*Hispánica* 42, 24-35.

――――（1999):「スペイン語の imperfecto と時間的限定性」『言語文化論究』No.10, 11-32.

WEB 教材

http://www.spanishpodcast.org
http://blog.lengua-e.com
http://www.gramaticas.net

Las expresiones de cortesía en español
―en torno al imperfecto de cortesía y el condicional de cortesía―

Hiromi YAMAMURA

Como es bien sabido, en los textos de español publicados en Japón es muy frecuente encontrar las frases explicativas como “el imperfecto tiene un uso de cortesía” y “el condicional tiene un uso de cortesía”, pero, según nuestro saber, no hay ningún texto que explicite si hay diferencia o no entre el imperfecto de cortesía y el condicional de cortesía, lo cual a menudo causa problemas al aprendiz de español. En estas circunstancias, este artículo tiene por objetivo aclarar los tres puntos siguientes:

1) ¿El imperfecto de cortesía y el condicional de cortesía son lo mismo o son diferentes? ¿El imperfecto de cortesía y el condiconal de cortesía son siempre intercambiables o no?

El imperfecto de cortesía y el condicional de cortesía no son lo mismo y no son siempre intercambiables.

2) Si el imperfecto de cortesía y el condicional de cortesía no son intercambiables, ¿qué diferencia hay entre ellos?

En cuanto al imperfecto de cortesía, el sujeto de la oración tiende a ser el hablante y existen condiciones situacionales que permiten la enunciación en cuestión, mientras que, en el caso del condicional de cortesía, el sujeto de la oración suele ser el oyente y no hay restricciones situacionales que impidan la enunciación en cuestión.

3) ¿Cuál es el mecanismo por el cual surge el uso del imperfecto de cortesía y cuál es el mecanismo por el cual surge el uso del condicional de cortesía?

Cuando se usa el imperfecto de cortesía, el contacto mismo del hablante con el oyente evoca un momento determinado del pasado que es imprescindible para que aparezca el imperfecto, con el cual tiene relación simultánea la proposición en cuestión. Es decir, el uso del imperfecto sugiere la atención por parte del hablante al contacto con el oyente, de lo cual nace el matiz de cortesía. En cambio, cuando se usa el condicional de cortesía, siempre se establece una construcción hipotética implícita y el hecho de que el hablante presente la proposición en cuestión basado en tal construcción hipotética produce algunas consideraciones por parte del hablante hacia el oyente, de lo cual nace el matiz de cortesía.